

サイジャーナル

月刊
2-7-8
第452号

日本サイ科学会 令和2年7月1日発行

本部 〒271-0047 千葉県松戸市西馬橋幸町41-506 郵便振替 00100-2-15344 日本サイ科学会
電話 047-347-3546 FAX 047-330-4091 E-mail office21@psij.mail-box.ne.jp

東 北 〒981-0904 仙台市青葉区 旭ヶ丘1-36-1 アサビル201号 佐佐木 康 二 ☎ 022 (279) 0908・FAX 022 (274) 0097	中 部 〒455-0053 名古屋市港区 名四町113 眞 野 博 英 ☎ 090-9196-2963	北 陸 〒920-0031 金沢市広岡2-7-25 プレミスト金沢駅西口1 804号 佐 藤 禎 花 ☎ 076 (234) 2034	関 西 〒545-0034 大阪市阿倍野区 阿倍野元町1-2 和 田 高 幸 ☎ 06 (6624) 0569・FAX 06 (6624) 5061	九 州 〒851-2122 長崎県西彼杵郡 長与町本川内16-6 森 安 政 仁 ☎ 095 (883) 6048・FAX 095 (883) 6159
--------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------

七月本部例会のお知らせ

不思議体験談、写真映像発表・
討論会(発表者募集中)

日時 令和2年7月19日(日)

午後1時30分～4時30分

会場 北とぴあ9階901会議室
交通 J R 京浜東北線王子駅下車
徒歩2分、ホーム最北端(赤
羽寄り)の階段を下り改札
口を出て見える高層ビル

会費 一千元(会員・一般とも)

皆様がこれまでに体験した不思議な現象や不思議な写真・映像を参加者の皆様に紹介しながら、参加者全員で解釈や討論をして、共有する会です。

UFOと宇宙人、オーブや心霊写真、地震雲など地震前兆現象、それらに関わる動画等、是非日本サイ科学会事務局に事前に「プリント写真」あるいはUSBメモリの郵送、あるいはメール添付ファイルで送信いただければ、有り難いです。(送られたものは返却できませんので、コピーをお願い致します。)

◎事務局からのお知らせ

新型コロナウイルスが再度感染が拡大し、第2波が来た場合は、7月以降の本部例会、分科会等は中止になる可能性があります。

遅くとも開催一週間前には公式サイト、会員メーリングリスト(登録者のみ)で、開催の可否をお知らせ致しますが、必ず開催日前日も公式サイトでご確認願います。

スプーン曲げ等の念力、透視能力・予知能力などサイ能力に自信のある方、または友人、知人に能力者のいる方は是非お連れしてください。

特別講師はおりませんが、参加者の皆様の自由な発言でいつも楽しい会になりますし、終了後の懇親会も面白い話題で盛り上がります。

参加費は、会員、一般とも千円です。ので、気楽にご参加願います。

※8月の本部例会はお休みとなります。

今月号の記事

- ◎七月本部例会のお知らせ
- ◎事務局からのお知らせ
- ◎事務局からのお知らせ
- ◎九月通常総会・本部例会のお知らせ

- ◎十月第29回全国大会発表者募集
- ◎関西日本サイ科学会七月研究会のお知らせ
- ◎第40回宇宙生命研究分科会予告
- ◎第11回スピリチュアル研究分科会のお知らせ

- ◎平成31年4月本部例会の報告I
- ◎念写を成功させる為に(その1)
- ◎心霊相談に関しての質疑応答

◎事務局からお願い

6月の通常総会がコロナ禍で中止、9月に延期となりましたので、再度お手数をお掛け致します。今回は正会員・維持会員のみ、通常総会出欠用ハガキを同封致しましたので、9月12日(土)までに必ず、ご返信願います。

また、前回のハガキで会員メーリングリストへの登録希望を確認致しました。その中で「未登録な

ので登録したい」にチェックされた方で、ご自分のアドレスを左記の日本サイ科学会のメールアドレスにお知らせいただいていない方がいらっしやいます。是非「会員メーリングリスト登録希望」と書いて、送信願います。

office21@psi.mail-box.ne.jp

さらに「会員メーリングリスト」への登録は希望されない方も、今回のコロナ禍での本部例会中止のように、緊急のお知らせを送信したいケースもありますので、できるだけ右記の日本サイ科学会のメールアドレスに、「緊急メールのみ送信希望」と書いて送信願います。

◆ ◆
九月通常総会・本部例会のお知らせ

※会員は午後1時30分から通常総会、一般の方は午後2時からの本部例会からご参加願います。

日時 令和2年9月19日(土)

午後1時30分～2時 通常総会

午後2時10分～4時40分 講演

会場 北とびあ9階901会議室
 交通 JR京浜東北線王子駅下車
 徒歩2分、ホーム最北端(赤羽寄り)の階段を下り改札口を出て見える高層ビル

会費 会員 二千元(当日入会可)
 一般 三千元 学生 一千元

講演 **多能性幹意識の誘導による超能力の覚醒とシーター波の脳波(iPT意識)**

講師 山崎 正男氏

超能力の真意を問う不毛の論争は、古今東西続いています。いまだに結論は出されておられません。その背景にあるのは科学的根拠に基づくエビデンスの欠如であり、そのコンセンサスが得られないからです。しかしながら、30年間にわたり超能力の解明という命題に取り組んできた結果、超能力は六番目の知覚機能であることを発見し、「iPT意識」のタイトルで学術論文を執筆しました。

釈迦牟尼ブッタは、2500年前に瞑想により不可思議なビジョンを体験し、そのビジョンを「悟

り」として仏教の開祖になった、ブッタは超能力の第一人者だったのです。

透視、予知、過去知、体外離脱、臨死体験、テレパシー、テレポーテーション、遠隔気功、念力、霊能力、霊視、心霊手術、特異効能、透聴、直観、物質化現象、アブダクション、知的生命との交信、オーブ現象、仏教の悟り、このような超常現象、超能力は、変性意識状態で覚醒するのです。そして、多くの人が超能力を覚醒すれば、政治、経済、教育、文化、芸術、科学、医学、スポーツ、音楽、農林水産などさまざまな分野で、人類は計り知れない恩恵を受益できます。講演では超能力のメカニズムと覚醒のメソッドを分かりやすく解説します。

※山崎正男氏は長年、「サイ」を多方面から科学的研究を続け、その成果により一般人でも超能力を発揮できるシステムを開発されました。会員の皆様はご友人・知人をお誘いして、是非ご参加願います。

◎山崎正男氏プロフィール
 MSU Mindanao State University

Dr. Masao Yamazaki, Ph.D. 医学博士、名誉教授。

欧米、欧州、東南アジアを歴訪し東西医学の研鑽を積む傍ら、脳生理学と脳波の観点から、「気の医学」の有効性を実証し、代替・補完医療のEBMを確立する。30年間の研究、臨床試験から、『超感覚外知覚』(ESP)という六番目の知覚機能を発見し、そのメカニズムを解明して学術論文を執筆する。日本iPT意識研究所所長、上海国際医学気功学会組織委員、日本プロスポーツリハビリセンター院長、国際気功科学アカデミー学院長等歴任、国内外に多くの門下生を輩出している。新聞、週刊誌、書籍、テレビ、ラジオ、出演多数、著書、人類革命、気功の鉄人他、アピナ出版。

◆ ◆
**2020年日本サイ科学会
 第29回全国大会発表者募集**

毎年重要な行事である全国大会が、今年も10月24日(土)北とびあ第一研修室にて開催されます。

会員の研究発表+シンポジウムが予定されておりますが、会員の皆様には積極的な発表ご参加を期待しております。

今年のシンポジウムのテーマはこのたびの新型コロナウイルスのパンデミックがありましたので、シンポジウムテーマを変更させていただきます。

変更後のテーマは「サイと免疫カクガン・ウイルスとの闘いも含めて」となります。

会員の研究発表では、シンポジウムのテーマに関してでも、そうでなくてもOKであり、これまでの研究での新しい発見、現在もしくは近いうちにデータ取りをしてまとめたいこと、偶発現象(UFO、心霊現象等)の目撃と原因の推測・解明、様々なサイ現象の仮説(理論)など「サイ」に関連することなら何でも結構ですので、ご自分の考えや研究成果をまとめ、発表して頂きたいと存じます。

7月末までにタイトルと簡単な内容(200字くらい)をメール、またはFAX、ハガキでお送りいただき、一応審査させていただきます、通りましたら8月31日までに

原稿ファイルをメール添付等で戴きたいと思えます。原稿の書式は後でお知らせ致します。

※全国大会での発表はできないが、論文集「サイ科学」の資料として、発表したい原稿も募集致します。論文集「サイ科学2019」末頁の「サイ科学の投稿審査規定」をよく読んで、応募願います。

◆ ◆

関西日本サイ科学会
七月研究集会のお知らせ

死ぬまで元気に生きられる
場の医学健康法

講師 生一 智之氏
キイチ トモユキ

日時 令和2年7月18日(土)
午後1時30分～5時

会場 まつむし音楽堂(大阪市阿倍野区阿倍野元町1・2)
交通 御堂筋線「天王寺」、近鉄南大阪線「阿部野橋」で阪堺

電車上町線に乗換え「松虫」下車すぐ。

会費 会員及び同伴の家族二千元
一般三千元(初回参加者二千元)
学生一千元

問合せ06・6624・0559

◆ ◆

第40回宇宙生命研究分科会

第14回UFOオーブシンポジウム
テーマ「宇宙人(ホモ*コスミクス)」

日時 令和2年7月23日(木・祝)

午前10時～午後4時

会場 北沢タウンホール
スカイサロン

(世田谷区北沢2・8・18)
交通 小田急線下北沢駅東口徒歩5分・京王井の頭線下北沢

駅前中央口徒歩5分
小田急バス北沢タウンホール系統 下61(駒沢陸橋)北沢タウンホール)終点
会費 会員一千元(日本サイ科学会・サトルエネルギー学

会・60歳以上・学生)、一般二千元、宇宙人0円

※事前参加申し込みは不要です。
※当日会場にて直接、現金にて参加費をお支払い下さい。
(世話役 阿久津淳)

◆ ◆

第11回スピリチュアル研究分科会のお知らせ

人生に奇跡を起こすサレンドアの法則

講師 刀根 健氏

日時 令和2年10月31日(土)

午後1時30分～4時30分

会場 北とびあ9階901会議室
交通 JR京浜東北線王子駅下車

徒歩2分、ホーム最北端(赤羽寄り)の階段を下り改札口を出て見える高層ビル
会費 会員一千元(当日入会可)
一般二千元 学生一千元
※当日会場にて直接、現金にて参加費をお支払い下さい。

内容

本講演では、私が肺癌ステージ4 B状態からの生還によって体験した、サレンダーの法則をお伝えします。

私は2016年9月に肺癌ステージ4の宣告を受け、様々な経緯から標準医療ではなく代替医療を選択、約9か月間にわたる必死の努力もむなしく癌は全身(脳・両目・リンパ・両肺・肝臓・左右の腎臓・脾臓・全身の骨)に転移しました。

やってやってやり尽くして、それでもダメだったという状況によって、それまでの自我(エゴ)が崩壊し、不思議な境地を経験しました。それは絶望ではなく、解放でした。

そして、その「すべてをゆだねる(サレンダー)」状態になると、不思議な出来事が次々と起こり、その約二か月後には全身に転移していた癌はほとんど消失していました。

当日は、癌になった原因も含め、サレンダー状態のときいったい何が起こり、それがどういう未来を引き寄せたのか、ゆだねることが奇跡を呼ぶ、ということを体験談

の中でお話ししたいと思います。

その中で、自我(エゴ)や思考を弛める方法など奇跡を呼ぶ「サレンダーの法則」を皆さんに体得して頂きたいと思っています。

◎刀根健氏プロフィール
OFFICE LEELA(オフィスリーラ)代表。

東京電機大学理工学部卒業。大手商社勤務を経て、教育系企業に。心理カウンセリングの資格取得コースの開発や人事部門での教育・研修・制度開発を担当。

研修会社へ講師として転職し、防衛省や国土交通省など官公庁を始め、NTTなどの企業や病院を中心にコミュニケーションやリーダーシップ研修を通じて二万人以上の指導を行う。

また、ボクシングジムのトレーナーとしてもプロボクサーの指導・育成を行ない、3名の日本ランカーを育てる。

癌になったのを契機に2018年に独立し、OFFICE LEELAを設立、現在に至る。

著作「僕は、死なない」(ソフトバ

ンククリエティブ2019)
「ストローク・ライフのすすめ」
(フォーメクス出版 2008)



平成31年4月本部例会報告I

オーブ研究の最近について

講師 佐々木 茂美氏

佐藤 禎花氏
苗 鉄軍氏

生命の循環とニユートリノ素粒子の世界

講師 佐藤 禎花氏

ホリスティック健康科学研究所代表

最初に何故私が月を撮るようになったかを申しますと、21世紀は月読尊(つきよみのみこと)様の時代ということを伺いまして、それから見えないところが大事になるということで臓器もそうですが、今NHKスペシャルでもやっております、人体の不思議ということ

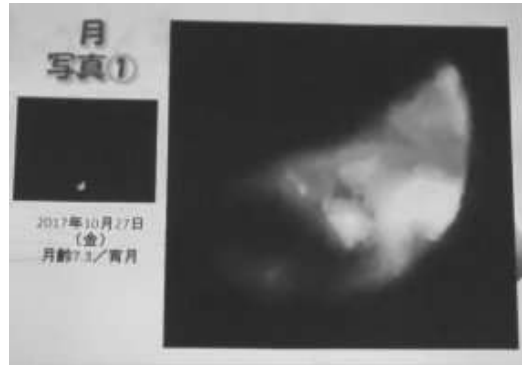
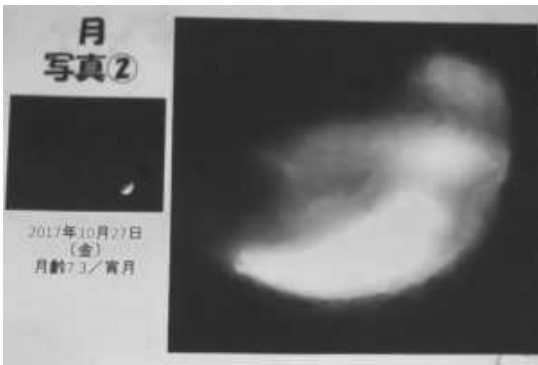
で、細胞がすべてコミュニケーションしあって、臓器を造っていくというテーマのものです。



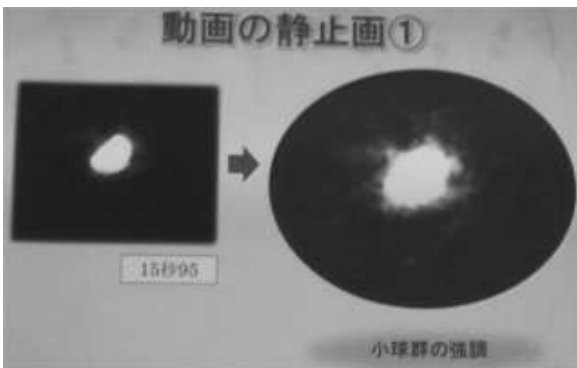
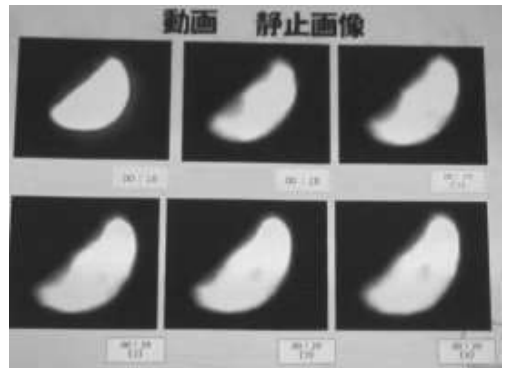
今回本に載せている写真全体に、「月 生命誕生」というタイトルをつけたのですが、月の周りに多くの小球体が飛んでいるのですけれども、私は月のオーブと思っています。

月の外側から、玉が一個入って受胎する状況が起こるんですね。その玉が中に入ってから、どんな形が変化していきます。それが人の形のようになっていくながら、最後は波になるのです。

だから「生命誕生」という名をつけたのは、誕生したものが最後は波になって、終わっていく形であるからです。



これはエッジ加工された写真ですが、月の周囲が小球体だったものがすべて波になるのですね。玉が一個入って、月の像が分裂していったって、だんだんいろいろな形に

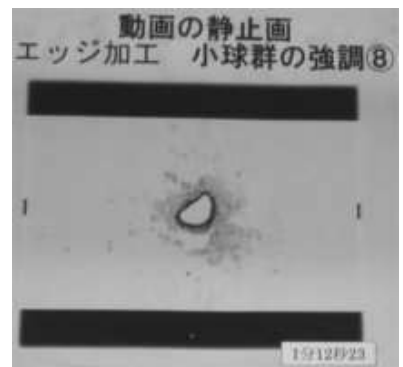


この写真が外側の小球群の中か
なっていくのですけれど、そういう意味で「生命誕生」とつけました。

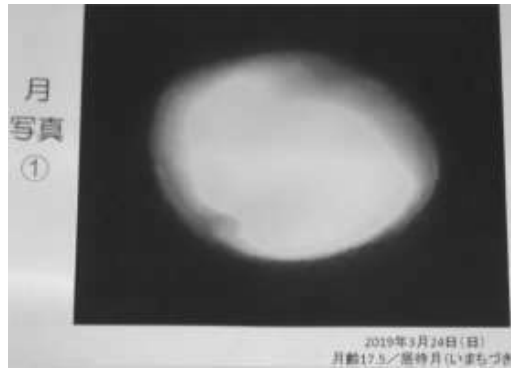


これが月の像の動画ですが、外側から小球体が入って、形がどんどん変化していきます。

ら一個選ばれて、中に入っているたものです。

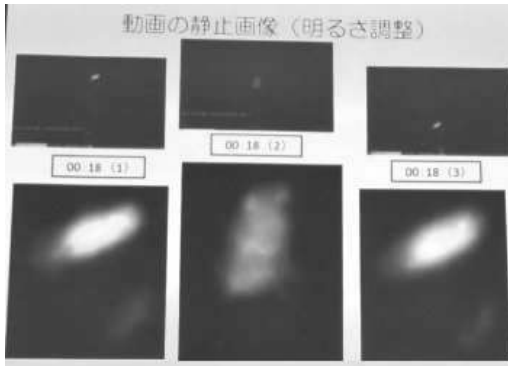


月読尊様というのは、勾玉(まがたま)といわれておりまして、勾玉は生命の誕生とか、潮の満ち引きとか、全部そういうものに関係するのではないかな、と思ったものですから、それを撮らせたいかな、と思っております。

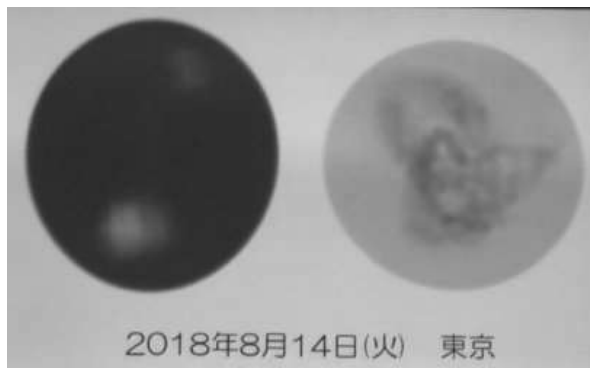


これは今年の3月24日に撮ったものですが、勾玉の陰と陽の重なりだと思えますね。ここに子供がいるな、というふうに見えます。

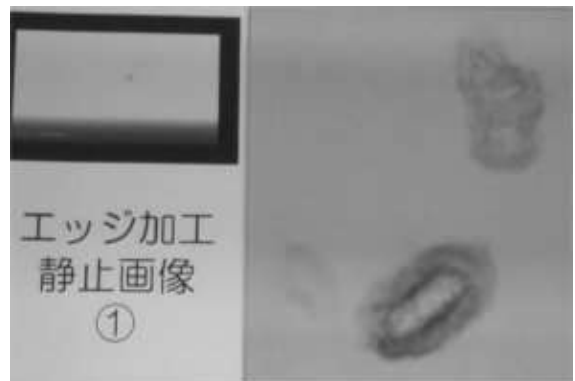
次の写真は2連の何か分からないものが撮れたので、明るくしていきながら、見ました。



写真の下の方がかなりいろいろな動きをしていますが、上の左側真ん中の写真は、螺旋でつながっていて、中がミトコンドリアみたいに見えます。



これは昨年8月14日に撮れた写真ですが、暗いところにポツと光が出てきて、それがきれいな光なんです。それをエッジ加工をしてみました。すると、中身に入っているものが入って見えます。

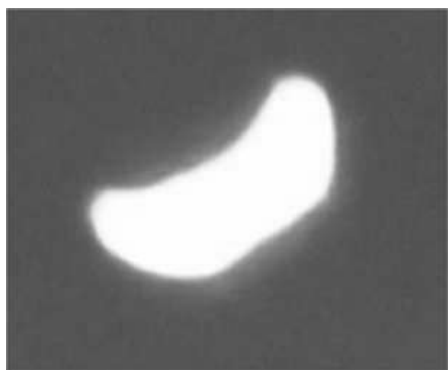


数年前に私に来たメッセージを思い出したんですが、「人間は死ぬと、色を選んで入る」と言われたんですね。「待てよ?」と。一旦亡くなって帰ってきた方の話だと、トンネルに入ったり、川を渡ったり、と言ったけれども、私へのメッセージでは色と言っていたな、と思い出して、今日発表しようと思つたことの一つです。

おそらくふわふわと上に浮いている、いろいろな色が、亡くなった方たちのいろいろな想いがそこにあるのかな、と思うと、きれいな

だなというのを、ご覧になっていただきたい、と思ったわけです。

次がまた不思議な動画ですが、今年の3月12日に撮られたもので、私は「月かえる」と呼んでおります。



月を撮っているのですが、月が次第に違うものになっていきます。最初は月の下が平らになり、そこから何かが生まれてきて、それが育つてくると、蛙のような形になり、その後エネルギーを増してか



ら、消えていきます。

その後4月9日に「外に出なさい」というメッセージが来て、真っ暗な中にほのかに光が見えて、これを動画に撮りました。

ここに月が何気なくいる中に、わーっと巻いてきているエネルギーが、このようなきれいな色になっております。

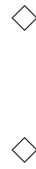
その後、2番目の動画はものすごくスピニングして動き回っております。

そして、3番目の動画は、先ほどと同じように、スピニングしながら形が変化していきます。やはりまた最後は光の像の下が育つてきて、落ち着いてきました。



天神社でも、きれいな玉をいただいたのですが、これはまだ編集できていないので、今日はお見せできませんが、この「オーブ・

たまゆら」というものに繋がる元かなと思ひ、そしてどのように生きていけばいいんだらう、それから終わってもまだ繋がっているよと。いろいろなテーマを私は与えてくださっているのではないかな、と思っております。



フラクタル現象としてのORB

講師 苗 鉄軍氏



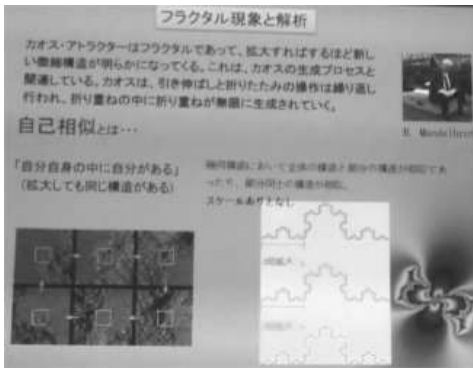
昔からサイエンスと宗教の分野があつて、宗教では何も証明はいらなくて、教祖様が「これは神様が決めました。皆さん信じて下さ

い」と言えば、信者の皆さんは従いますが、サイエンスは必ず実証とか、実験をして、皆を説得しなければなりませんし、あとで再現実験も必要になります。

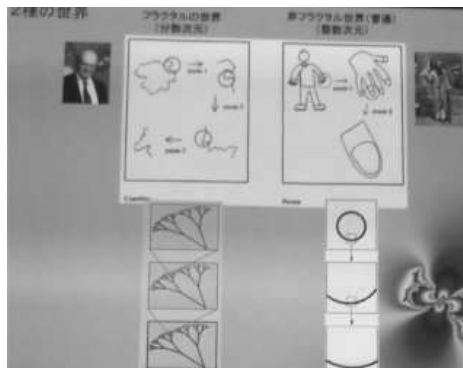
日本サイ科学会もアカデミックな学会ですので、いかに今の不思議な現象をサイエンスで何とか解明できないかというところを、今回発表させていただきま

す。オーブについて何が分かっているかを考えますと、オーブにフラクタル現象の特性があるのでないか、ということとで解析してみました。

フラクタルとはどういう意味かといいますと、フランスの数学者

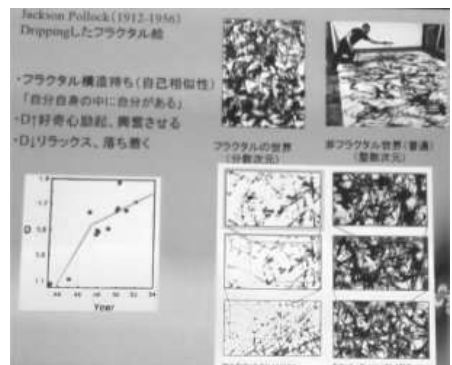


マンデルブロが導入した幾何学の概念ですが、単純な世界の中にも複雑性があつて、「自分自身の中に自分がある」、「拡大しても同じ構造がある」という、「自己相似」の構造となります。(左図左下)



非フラクタルである普通の構造では、右図の右下のように、拡大しても何も現れないということと

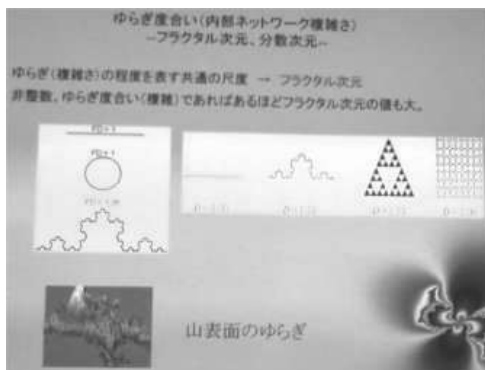
す。アメリカの画家 Jackson Pollock の描いた絵画は高く売れたのですが、数学者が解析したら、フラクタル構造があり、これが高く売れた理由の一つだと考えられております。



レオナルド・ダヴィンチの絵画もフラクタル解析をしてみましたら、やはりフラクタルな構造がありました。

その他ざっと調べてみたのですが、生命体、例えば植物、木の構造、心臓の血管の構造、肺の構造、

神経も間違いなくフラクタル構造をもっております。



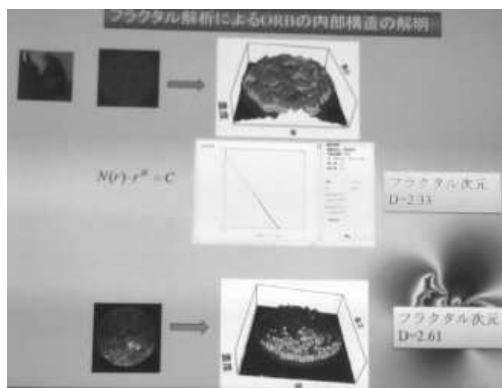
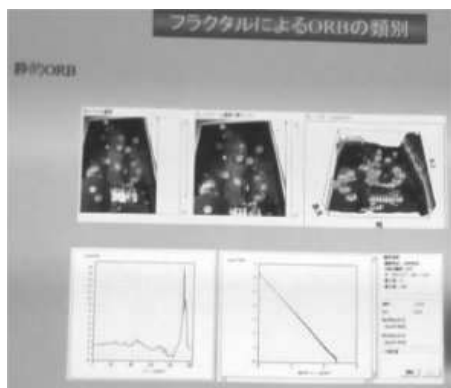
それでフラクタル構造を定量化するために、マンデルブロによるフラクタル次元という計算法が創られました。

単純なものは、フラクタル次元が1、複雑になるにしたがつて、1から数値がアップします。

フラクタルな図の生成メカニズムとして、カオス的な動きがあるので、考えられません。

それでまずいろいろな模様について解析しますと、フラクタル次元が計算できますし、オーブの中に見られる構造も、フラクタル次元が高くなります。

(右図について佐々木茂美先生の解説)



これらの写真とそれに写ったオーブのフラクタル次元をまとめますと、次の図ようになります。

フラクタル次元は、だいたい2から3の間にあります。

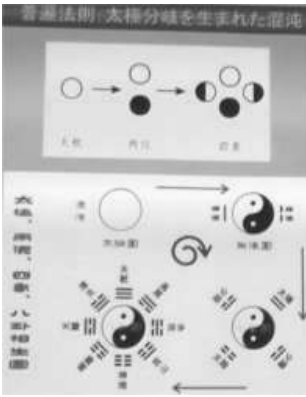
もし生命現象とした場合は、細胞分裂の法則に従うのですが、中国の哲学から述べると、まず太極があります。そこから陰陽が分かれます。さらに陰陽、陰陽に分かれます。8つのものに分けられて、世界が回ります。

「これは江戸川区にある「立木観音(たちきかんのん)」といひまして、大木に観音様の姿を彫つたものです。それを撮った写真にオーブが沢山写っております。」

今回佐々木先生が出された本「オーブ・たまゆら」は、先生のオーブについての長年の研究成果が書かれたものです。

本の価値というのは、当然本に書かれた内容はまず大事です。もう一つは読者がその本を読んでいろいろな想像できることも非常に大事です。

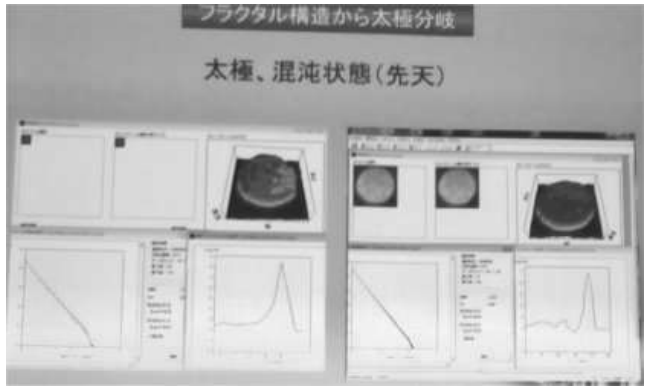
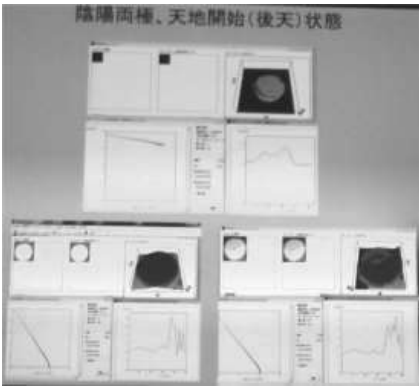
今回佐々木先生が出された本「オーブ・たまゆら」は、先生のオーブについての長年の研究成果が書かれたものです。



まとめ

画像	写真1全体	写真1の中 の飛び	写真2全体	写真2の中 の飛んでいる飛び
フラクタル次元	2.573	2.707	2.567	2.718
内部フラクタル構造	鋭い単峰・複数鋭い峰	遅めた単峰	鋭い単峰・潜在小峰	複数鋭い峰の複合

その他、地域によるORB

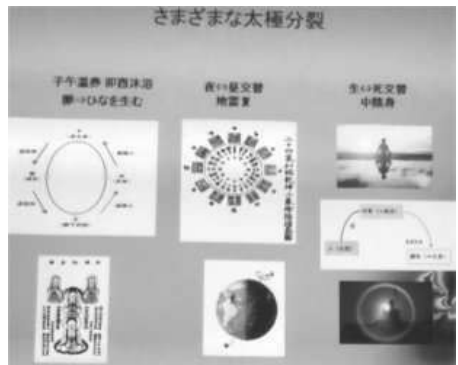


太極分岐の中間状態・混沌

混沌=カオス(荘子)
混沌の概念は、老子の「道徳経」に「混沌」として登場する。混沌とは、天地未開の状態を指す。混沌は、あらゆる可能性が共存する状態であり、秩序と無秩序の境界に存在する。混沌は、複雑なシステムにおいて、予測不可能な振る舞いを示す状態を指す。混沌は、自然界の多くの現象を説明するために用いられる。混沌は、人間の意識や感情の動きを説明するために用いられる。混沌は、社会や経済システムの動きを説明するために用いられる。混沌は、宇宙の動きを説明するために用いられる。混沌は、生命の動きを説明するために用いられる。混沌は、人間の歴史の動きを説明するために用いられる。混沌は、人間の未来の動きを説明するために用いられる。混沌は、人間の運命の動きを説明するために用いられる。混沌は、人間の運命の動きを説明するために用いられる。

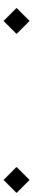
結論から申しますと、我々が撮影し、検証していますオーブは、一種の生命体みたいなものではないか。なぜかといいますが、オーブは普遍的にフラクタル現象の法則に沿っています。もう一つは、生成するための細胞分裂のような、言い換えれば太極分裂のような法則に従っています。

そうすると、間違いなくオーブは一種の生命体ではないか。ですから、普通の無生物ではなくて、木とか肺とか血管とかに、通じるものがあるかもしれません。



太極図を説明しますと、最初に太極があつて、それが陰陽に分かれ、その後四象から八卦に分かれます。八卦は「天、沢、火、雷、風、水、山、地」の八つの要素が互いに相互作用することによって、世界が廻って、いろいろな現象が生ずるといふ哲学です。

非常に面白い発想で、五千年前の伏羲の作と言われる「易経」に書かれたものですが、この本はいい本です。それは今でも、いろいろな解釈ができ、科学や哲学や我々の生き方にも影響を与えています。(次回、佐々木茂美氏に続く)



細身素粒子(サイ、気)である。透視は、額の前方に形成されたスクリーン(メンタル)の上に透視対象物を写し出して、心(ASC)で、視ることになる。

対象物の判断が容易な「画像、文字」の場合には(簡単な文字、数字等)、肉眼と同じように見える(多分、右脳の新皮質を利用)。複雑であり、判断が難しいと思われる「難しい画像や文字」(左脳の判断が必要)の場合は、鏡像(左右が逆)に見えることが多い。しかし、まれにはレンズ状(倒立像、鏡が上にある)になる事もある。この時、意識してみる肉眼視の場合を「此方から視る」とする。非肉眼視の透視の場合は「向こう側から視る(つまり鏡像)であり、両者を隔てる「壁」の存在が判断される、意識の向こう側に、「壁」を介して、前意識(ASC)の世界の在ることが推定できる。このメンタルな「壁」を、通常は、抗暗示障壁と呼んでいる。

(4) ミクロ念写(念球) 実験

遮光状態の暗缶内に受光ダイオードと発光ダイオードを置き、発光ダイオードに物理光(バイアス光)を与えて、閾値付近まで既知の光を与える事により、念球(光子群)の発生を助ける。結果として、念による光(念球)とバイアス光とを加算させる事により、念球(光子群)をより容易に発生させる事が可能であった。現象(念球)が生起すると、被験者は大変に喜んだ。それから後は、バイアス光を取り除いた後でも、容易に、強い念球が発生し、継続して、実験を続行することが出来た。

清田益章師(少年時)を被験者とし、小川雄二、佐々木茂美を共同研究者として、テレビ撮影用のビジコン管(M7075)、並びに、遮光状態の直径約180mmの暗缶(ブリキ缶)内に発生したマイクロ・オーブだ。特徴は、ノイズとしての室内光と電磁気波の影響を考慮して、サイ(気、念光球)の性質を調べた事にある。昭和52年~53年、東京都、電気通信大学の実験室。磁気テープに記録されたマイクロ・オーブの変化状況をモニターTV画面に再生し、それをカメラで撮影して1/60秒間隔に分解してある。上側のノイズ(多分、室内光の漏れ)とは別に、独立した約1mm径の白球状の動きが写されている。このパルス状マイクロ・オーブの移動速度はほぼワイブル分布[最頻値、6.5Hz]であり、ノイズがある場合には次第に増加して7.8Hz

[シューマン・レゾナンス]に近づいてゆく。パルスの強さのピーク値はほぼ正規分布であり、移動速度と強さは対応していない。つまり、単一の光源ではなく、移動中に変化する光源である事が解った。

さらに苗 鐵軍が複雑性科学のカオス解析を行ったところ、この変化は、低次元決定論カオス性であること。つまり皮膚表面の2~3カ所の経絡、またはチャクラが次元因子(カオスを決める変数)になると推定、並びに室内光ノイズや電磁気波ノイズが有る場合には、次元因子がより高くなる(多様性を帯びる)事が解った。これらは、念写の機構解明のために行った実験であったが、内容から見ると、マイクロ・オーブである事並びに次記が判明した。

1) サイ(気)の光の照射

*向こう側からやってきて、向こう側に去って行く。

2) 変化挙動

- *意識的に、或程度は、コントロールが可能。同期性は(-0.5~+2.0sec)。
- *出現は間欠的である(生体内のリズム程度)。
- *局部に集中しており、強い指向性を持つ。
- *柔らかい丸みと厚みのある白色雲球状(約1mm径)、渦巻き状である。

3) 物理的性質

- *近赤外線領域に潜んでいる(活性化エネルギー、1.388eV)。
- *出現は非局所、ランダム的。正と負方向(虚数)変化等の素粒子類似の性質がある。

4) 意識的な性質

- *被験者の変性意識状態(ASC)が光念球(マイクロ・オーブ)を呼び込んでいる様子。
- *変性意識状態(ASC)によってコントロールできる、と判断している。
- *イメージの指示に従って、マクロPKとして存在し、移動する。

を積んだ人が人生の成功者なのだと思います。
健康も幸せもお金では買えません。でも自分自身の徳を積むことは誰にでもできます。世のため人のため、心穏やかに尽くす。そうやって

積んだ徳が、先祖、子孫、周囲の人々、そして自分自身を健康に幸せにし、真の成功へと導いてくれるでしょう。

念写を成功させる為に(その1)

栗田 慶祐

(1) 福来とペンローズ

念写とは、念(意念)の働きで、遮光した乾板(フィルム)上にある種の図像(文字等)を写し出すもので、催眠の実験中に超常現象が生起することから、約110年前に福来友吉博士によって発見された。検討の結果として、「念」は願いを持ったエネルギーであり、時間や空間を超えて宇宙に充滿している、と判断した。ロジャー・ペンローズ(1931年～現在)は量子脳理論を提案している。意識は素粒子よりも小さい物質で、量子脳によって形成され、死亡によって体外に放出される、と提案した。実証はないが反対する人はいない、という。

(2) 意識の制御と透視

心は意識と無意識から構成されている。意識の基盤には前意識(ASC)、その基盤には無意識、集合的無意識がある。念写を実現させるためには、透視が必要であり、さらに前意識(ASC)の学習が必要になる、と判断している。

具体的には、呼吸のコントロールとリラクセス集中から始める。姿勢を正し、呼吸を制御して(ゆっくり吐く)、雑念を取り去り、心身を十分にリラックスさせる。前頭葉脳波を β 波から α 波と次第に下げてゆく(瞑想法、催眠法、呼吸法)。例えば、簡単な暗算をするか、または両眼で脳天を見る様にイメージする。すると、脳波の周波数が下がり、リラクセス集中が進行する。またはボリュームを上げて好きな音楽の中にのめりこんで、我を忘れて、熱中した状態に入る。つまりリラクセス集中か、または興奮集中により、部分的に意識の変容を起こさせ、変性意識状態(ASC)の中の零意識に意識を変えてゆく。すると、一種の催眠状態になる。

被験者は山下裕人師(少年時)。眼隠しをして心で物を見る(非眼視覚)、暫くすると(5～6秒)向こう側からサイ(気)の光がズー、パッー、と照射してきて、額の前面のスクリーン(メンタル)に像が映る。検討によると、この光は室内の光では無く、体内を流れる微細身素粒子(サイ、気)と同種の光(後述)であり、また、生命エネルギー(脈拍)に深く関係している。この光信号(サイの光)がくると、透視と念写が開始されることになる。透視は「念写」の基礎で、無意識(ASC)の働きに関係している。

意識の伝達をみる。一般の場合には「物を掴め」と言う大脳皮質(意識)の指令よりも0.35秒速く、無意識の神経細胞から既に指令が入っている。つまり意識は無意識の後追いである。

透視の場合を検討する。マンセル記号で表示すると、この待ち時間(後追い)は、明度、色相等に關係する。白と黒は速い(約1.5秒)、茶は遅い(約9秒)、赤、オレンジ、ピンク、緑、ブルー、紫(約5秒)。透視で物を見る場合の見える範囲は「割合に狭い」。「図形の形成過程」、「図形と文字のコピー」、「逆立像、鏡像」、「レンズ、フィルター」、「色覚」、その他が検討されている。

なお、サイ(気)の光は、プラズマ化した陰・陽のイオン対、陰・陽のサイspin対(光子)等のオーブ・たまゆら等から構成されており、素粒子類似の性質がでている。出現はランダム・パルス状であり、その周波数は約7.8Hzである。なお、実験によると、サイ(気)の光はspinしている(念写像)。

(3) 透視実験

透視の際に、向側から照射してくる光は、総合判断したところ、陰・陽の生体内を流れる微

ていることや、その相手がわかって「やめてください」とお願いしたとしても、「そんなことはしていない」と言われることが多いです。そしてさらに「根も葉もない言いがかりをつけられた」なんていうふうに恨まれることもあります。生霊とは厄介なものです。

究極的な解決法には、相手が心の平穏を取り戻すことなのですが、それは本人次第。念を送られているほうは、その手助けはできたとしても、相手の心を直接変えることはできません。

また、普段なら助言をし合うような仲間だとしても、そういった近い相手に生霊を送るというのは通常の精神状態ではありません。いつものように手助けやアドバイスをしようとしても、かえって相手を刺激してしまうことがあります。

親しい相手であれば、状態を見つつ、普段どおりに接しながら、自然な形でサポートしたり、気を紛らわすようなことができたりするといひかもしれません。そして自分自身もできるだけ相手の生霊にとらわれないよう、楽しいことを考えたりしながら、感謝と奉仕の心を忘れず、平常心で過ごすといひかと思ひます。

とはいひ私自身、強い生霊を送られると辛くてどうしようもないときもあります。護身法として九字を切るなどの対抗方法がないわけではないのですが、それはできるだけ最後の手段にしたいと思ひています。

生霊を送っている人は、自分自身にも必ず悪い影響があります。相手に作用する以上のマイナスが本人にも降りかかっています。それに気づいて気持ちを切り替えられるようになるか、自分を取り戻すか。または大きな負のエネルギーを送り続けることに疲弊して、自然におさまるか。受けるほうは、できる範囲でそれを促しながら、待つといひのが一般的な最良策かもしれません。

◎ 先生はいろいろな場所に赴かれてお祈りをされています。聖地を訪れる意味はどのようなものなのでしょうか？

心の勉強を続けている仲間、見えない世界を信じる仲間を誘ひ、日本中の聖なる場所を訪れています。高千穂や屋久島など、自然の力、霊的な力に満ちた場所を訪れると、心身がシャンとして精気をいただくことができます。

長年人々に信仰されてきた場所には、目に見えない世界の力が集っているのです。だからこそ人々の気持ちを引き寄せますし、人々の祈りや信仰が集うことで、霊的な力もさらに力を得ていきます。

霊的な力をもつ人、目に見えない世界を敬う人たちとそういう場所に足を運ぶと、いろいろと不思議なことが起こります。光の玉のようなものが浮かんだり、雫が落ちてきたりしたこともありました。不思議ではありますが理解できます。不可解なことではなく、ありがたい現象です。

感謝と自分を省みる素直な気持ちをもって聖地を訪ねることで、今の自分に必要な気づきを与えられ、心身の精気や英気を補給させてもらうことができると感じます。

◎ 現代に生きる私たちにとって、大切なことはなんのでしょうか？

私は長寿で健康を保っている人たちと、たくさんのお会いをいただきました。その人たちの生き方は「自分の道をまっすぐ真心で生きる」こと。感謝の心と奉仕の精神をもつ人たちばかりです。先祖が地域や周囲に奉仕し、本人も先祖に感謝して社会に尽くすこと、逆に、今を生きる私たちが人のために尽くすことで、先祖にいい影響を与えることもあります。

亡くなった母は私の夢枕に立ち、「お前がみんなによくしてあげているから、私も、ここで楽をさせてもらっているよ」と伝えにきました。自分が世のため人のために生きていれば、いただいた徳が先祖、子孫、そして自分自身を助けるために返ってきます。

そしてもうひとつ大切なことは、いつでも笑顔でいきいきと過ごすことです。笑顔も徳と同じです。周囲の人々も先祖も、そして自分自身も幸せにします。笑うことで不調を改善しようといひセラピーもあり、その効果は科学的に証明されている部分もあります。

この世に生まれて幸せになりたくない人はいないと思ひます。成功したくない人もないと思ひます。では、人生の成功とはなんなのでしょうか？

私が考える成功とは、何を得られるかではありません。自分のあり方だと考えています。世のため人のために活動すること。そうやって徳

いスーパーだ」と喜ばれて人気があり、業績をどんどん伸ばしています。

ビジネスの世界では誰かが得をすれば誰かが損ををすると思われがちです。でもそうではありません。みんなで利益を分かち合い、みんなで業績を伸ばしていくことができます。それによってお客様も喜ぶます。同業者であっても、ただ競い合うライバルではなく切磋琢磨し合う良きライバルであり、共に助け合う仲間になります。

自分だけが得をしても、本当によい生活、真の幸せは得られません。一時的には儲かった、得をしたと思っても、人はひとりでは生きていけないのです。喜びや幸せを分かち合うことで本物になります。光り輝きます。みんながそんなふう生き、活動していけば、世界のいろいろな問題は解決するのではないのでしょうか。

◎ 人が悩み苦しむのはなぜでしょうか？

前述した、心穏やかに暮らすために必要なことを実行できないからでしょう。「利益を分かち合うことがいい」と言われても、目先の利益を追い求めてしまう。誰かが得をすると、自分が損をしたような気持ちになってしまいます。

「自分に関心をもってほしい」という気持ちから、「わかってくれない」、「助けてくれない」など「〇〇してくれない」という不満が募っていく。

満たされること、分かち合うことを知らず、一方的に求めてしまう。それが悩みや苦しみの根源ではないのでしょうか。

また、先祖が浮かばれていない、先祖がなにか言いたがっているときも、心身の不調に悩み苦しむことになります。先祖が浮かばれないというのはどんな時でしょうか。先祖をないがしろにしていることもあります。それよりも、今生きている子孫たちが争ったり、不幸だったりすることが先祖の苦しみにつながります。特に身内の不和は先祖を苦しめます。するとその苦しみが子孫に降りかかります。身内同士の争いが難病につながるのはそのためです。まさに苦悩の連鎖です。

先祖はもちろん、子孫を苦しめたいとは思っていません。普通であれば子孫を守ろうと一生懸命です。けれど自分が苦しいあまりに、それを知らせたくて苦悩のメッセージを送るしか

ない。

自然災害は自然からのメッセージ、難病や原因不明の不調は先祖や関わる人からのメッセージ。そのメッセージを受け取り、応える努力をしていくしかないでしょう。

◎ 人が否応なしに受ける因縁には、どのようなものがありますか？

自分自身は満ち足りて幸せに暮らしていても、誰かからの念の影響を受けることがあります。私自身のことでいえば、志岐先生のもとで学び、ある程度は念の影響をコントロールできるようになりました。そうやってはじめて、人からの相談を受ける許可を得たわけですが、中には完全に抑えきれない強い想念を送ってくる人もいます。身近な人からの想念は、特に強い影響を及ぼします。常に感謝の気持ちで過ごし、日々、人々の相談を受けている生活の中でも、誰かからの想念などによって、どうしても避けがたい悩みが生まれることがあります。

たとえば妬みや、もっと構ってほしいという想念を受けて体に不調が表れるとき。この年齢になると、親しい人が家族を亡くすということもあります。家族を亡くした人が「寂しい」、「悲しい」、「どうして自分だけ」といった気持ちを抑えきれなくなり、身近な存在に対して恨みの念を送ってくる場合があります。

身内を亡くして辛い気持ちはよくわかります。できるだけ寄り添っていきます。けれど、最終的に受け入れるべき、解決すべきなのは本人です。私にも誰にも解消してあげることができません。その手助けしかできないのです。

本人が事実や自分の気持ちに向き合わず、誰かを妬んだり羨んだりすることで、自分の気持ちをごまかしている場合、悪い想念を受けた人の心身に影響が表れることが多いです。私自身、そういう念を受け、頭痛や肩こりに悩まされることがあります。

生きている人から送られる念は強いものです。これが一般的に生霊といわれるものです。

◎ 生霊やそれを送る人とどのようにつきあったらよいのでしょうか？

前述したように、生霊を送っている人の多くにはその自覚がありません。もし生霊を送られ

ている恨みや妬み、怒りのしるしです。それがわかったときは、恨みの念を送っている人と、それを受けて苦しんでいる人、お互いが相手のことを理解して、心が調和するようにお祈りをします。

私に相談する人の多くは、妬みや恨みを受けている人たちです。その人たちには、相手にとにかく詫びることを勧めます。一方的に妬まれ、恨まれているという人は、「自分は何もしていない」、「勝手に羨む相手が悪い」と言いますが、それでも「嫌な気持ちにさせてしまって申し訳ありません」と詫びること。それが不調解消のためにできることです。

相手を恨み、それによって自分も不調を起こしている人の相談もあります、その場合も「恨んではいけません。相手に詫びましょう」と伝えたと、「絶対嫌だ」と言います。けれど心から詫びれば不調は解消するのです。自分のためなのです。最初は納得できないでしょう。私も一緒に祈りながら詫びながら、心が落ち着き、心から詫びられるようお手伝いをします。すると不思議なくらいに心身が楽になっていく。それを自分で体験するから、みなさん納得して心の調和を図れるよう努めるのでしょう。

◎ 心身の不調に悩む人がますます増えている時代。それはなぜでしょうか？

原因はひとつではありません。けれど、自然とかけ離れ、自然を敬うことのない生活が日常になっていること。先祖への感謝や敬いの心を忘れている人が多いこと。他人への心遣いよりも自分を優先する気持ちが助長していることなどが、大きな原因になっていることは間違いないでしょう。

人間はこの宇宙の中で命を与えられた生き物のひとつです。現代社会では、人間は特別といった顔で生きていますが、宇宙から見れば特別扱いではありません。そのことを、昔の人々はわかっていたのだと思います。

そして宇宙から与えられた命は、脈々と続いています。先祖の歩みが今の自分につながっている。先祖のおかげで命を与えられたのですから、先祖を大切に敬うことが自分を大切にするための基本です。

さらには、人よりも得たい。お金をもって、権力をもって、利益と考

る人が増えていることも大きいでしょう。

人の体は機械ではありません。悪い部分を修理する、壊れた部品を取り替える、というようにはいきません。心も体も、全部がつながっています。しかも自分の心と体だけでなく、先祖や関わりのある人々との関係も影響を及ぼします。命というのはそれほど偉大なものであり、生きるというのは自分だけのことではない。そういうことを頭ではなく心で感じられるようになり、本当に納得すれば、感謝や奉仕の心が自然に湧き上がってくるでしょう。その心に従って生きていけば、心は穏やかになり、心身の不調は自然に解消していくはずで

私がしているのは、そのためのお手伝いです。心身の不調は、自然や祖先、宇宙からの警告です。私はそのメッセージを伝える媒介をしていますのだと思っています。私が治すのではありません。誰かが何か伝えたいことがあり、それに気づいてもらうために、相手の心身に不調をもたらす。受け取った人は「調子が悪い」と悩む。そこに込められたメッセージを解き明かし、相手の想いに応えていくことで、相手も落ち着き想念も止まります。

◎ 心穏やかに過ごすために、日々の生活の中で、どのようなことを心がければよいでしょうか。

自分だけが得をしない。取れる分をひとりで全部取ろうとしない。人間関係の中で互いに助け合いながら、敬い合いながら生きていくことが大切だと思います。家族でもビジネスでも同じことです。

たとえば最近では全国チェーンのスーパーマーケットが増えましたが、小さな商店が生き残れない現状があります。会話をしながら買い物をして、魚や野菜を買えばおいしい食べ方を教えてくれる。少し前までは当たり前だったそういう光景はめずらしいものになりました。

スーパーでも採算を追求して、1円でも安く仕入れたいということになれば、そのために無理をする卸が出ます。誰かの利益が誰かの苦しみになる。その構図はよいものではありません。

長崎と佐賀にチェーン展開する地元密着型のスーパーマーケットの中に、業者に無理をさせず、お客様に新鮮でよいものをできる限り安く販売するというお店があります。全国チェーンのお店とは比べられませんが、地元では、「い



〒271-0047 千葉県松戸市西馬橋幸町41-506 日本サイ科学会発行
電話 047-347-3546 FAX 047-330-4091 E-mail office21@psij.mail-box.ne.jp
公式サイト <http://psi-science.org> ML申し込み先 office21@psij.mail-box.ne.jp

心霊相談に関するの質疑応答

九州日本サイ科学会会長 森安 政仁

◎ 40年近く心の勉強を続けていらっしゃる中で、大切だと思われることはなんですか？

働き盛りの40代、原因不明の体の不調に悩む私が出会ったのが、人生の師匠となる志岐誠哉先生です。本業は大きな布団屋さんですが、思想家、霊能者として長崎では名前が知られる存在でした。パーキンソン病に悩む知人と共に先生を訪ねた私たちを、先生はその場で癒してくださいました。

それまでは目に見えない世界のことなど考えたことのなかった私にも、はっきりと分かりました。自分で体験したのですから当然です。科学では解明しきれないものがある。私たちは、見えない世界の影響を受けて生活しているのだと気づきました。

そこで先生にお願いして弟子にさせていただき、心の勉強をしながら修行しました。先生のお許しが出てからは、人々の相談を受けて今に至ります。本業は卵の卸業ですから、それ以外の時間を使って無料相談を続け、いつの間にか40年近く過ぎています。

その中で感じるのは、人の心というのは時代を超えても変わらないということです。物資が乏しかった時代には、ものももっと欲しかった。今のように豊かになっても、もっとお金が欲しい。もっと自分に関心をもってほしい。もっと幸せになりたい。もっともっと欲しいという気持ちがあります。

同時に、人のために役立ちたい。心の平穏が欲しいという欲求もあるはずですが。このふたつの気持ちは相反するものではありません。もっと欲しいという気持ちは頑張りにも通じます。

悪いばかりではありません。でも欲張りになりすぎれば満足することがなく、心の平穏がなくなります。また、一人占め、一人勝ちをしようとすれば、それを叶えて一時的に満足したとしても、誰かからの恨みや妬みを買います。そうなれば喜びは続かず、平穏はあり得ません。

もっと欲しいという気持ち、自分を主張する気持ちはあってもいい。けれど、それ以上に感謝と分かち合い、奉仕の気持ちが大切です。人の心、あるべき姿の基本だと思っています。

◎ 毎日の電話相談には、どんな内容が多く寄せられますか？

一番多いのは心身の不調です。本人だけでなく、家族のための相談もたくさんあります。子どもが荒れて困っているとか、夫婦仲、人間関係の悩みもあります。

それらは実は根っこのところでつながっています。現代の人々の体の不調のほとんどは、根っこの部分に人間関係の不和があります。直接的には感じられなくても、どこかでつながっていることが多いです。

耳鳴りや頭痛、肩こりが治らず、病院に行っても鍼灸などの東洋医学でも治らない。一時的に症状が緩和しても、少しするとまた繰り返す。顔面神経痛や体の麻痺など、おおもとの原因がわからないもの。うつ病の相談も増え続けています。根本的な治療法がない症状などに悩む人からの相談はなくなりませんね。

私の経験からいうと、左側の肩こりや頭痛などは、女性から恨みや妬み、怒りを受けていることの表れです。右側の不調は、男性から受け